

特別支援



体育館や作業棟も新しくリニューアルされ、新しい仲間や先生、教室にも徐々に慣れ、それぞれの個性が発揮され、日々充実した学校生活を送っています。

小学部 附属小との交流

低学年・図工「夏の木をつくろう」



小学部では附属小4年生との学校間交流を毎年3回行っています。6月は附属小のお友達を本校に招き、3つのグループで「図画工作」「音楽」「体育」の教科を共に学習しました。低学年グループの図画工作では、「なつのをきをつくろう」という題材のもと、お花紙を使ったちぎり紙遊びを通してダイナミックに楽しんだあと、のりで貼り付けて大きな「なつのをき」をみんなで制作しました。協働的な学びを通して、互いに刺激し合い、関わりを深める姿が随所に見られた実りある機会となりました。



中学部 生活単元学習



今年度、1年生は「山梨を知ろう」、2年生は「日本を知ろう」、3年生は「修学旅行に行こう」として学習を行っています。1年生は宝石や印伝に見立てたビーズアクセサリー作りや模様付けなどに取り組んで地域の産業を知り、2年生は実際に抹茶を点てて飲んだり、昔の服装を着てみたりする体験的な学習を通して日本の文化を知ることができました。そして3年生は、2年時の大豆（味噌）の学習とも繋がる愛知県名古屋方面への修学旅行に行ってきました。公共の場でのルール・マナーを意識しながら、陶器への絵付け体験や名古屋城の見学、味噌かつなどの地域特産品を食すなどの活動を通し、他地域の文化などを知る有意義な学習活動となりました。



高等部 職場見学・体験



高等部生徒は現場実習や職場見学・体験という活動を通して、卒業後の自分の進路を考える学習をしています。今回は2つのグループに分かれ、「ぎんが工房」と「THK株式会社」「マクドナルド国母店」の事業所を訪問し、見学や体験をしてきました。どの職場も様々な仕事があり、働く上での心構えや仕事上の楽しみや喜びなどの話を聞くことができました。この後に控えている現場実習に向けて、よい学びとなり、自分の進路について深く考える機会となりました。



山梨大学教育学部の学生（2年生全員）が、本年度も特別支援学校にて年間を通して介護等体験学習を行っています。わずか2日間の実習ではありますが、実習後の感想のなかに、子どもたちの特性を深く理解し、その特性に合った適切な支援が何よりも大切であり、指導目標に沿って何を手助けし何を見守るかを見極めることが本当の支援であると学んだという学生の感想を見て嬉しくなりました。介護等体験学習を通して特別支援教育に対する理解を深めた学生が、優れた未来の教員に育っていくことを今から楽しみにしています。

校長 田中武夫

きりの華24

Kiri-no-ka

第10号
2024年7月発行

山梨大学教育学部附属
幼稚園・小学校
中学校・特別支援学校

新型コロナウイルスが5類に移行して一年あまり。元に戻ったように見える学校園ですが、もどすことが難しいのが人や地域などとの交流です。そこで、本号ではそれぞれの学校園が児童生徒の発達や環境などに応じて、さまざまな交流をしている様子をお伝えします。

幼稚園

幼稚園は、子どもが自ら心を動かしながら周りの環境と関わり、豊かで多様な体験を通して育っていくところです。本園の子ども達は、好奇心いっぱい好きな遊びを見つけたり、友達と一緒に活動する楽しさを感じたりしながら、毎日を送っています。遊びを通して色々なことを学んでいる、この時期の3学年の子ども達の姿を紹介します。

年少組 水遊びや泥んこが大好き！樋を使って水を流したり、ごちそう作りをしたり、裸足になって泥んこの中にジャンプしたり、全身で水や泥に触れながら、たっぷりと楽しんでいます。最初は「汚れるからイヤ」と見ていた子も、お友達の様子を見ながら心を動かし、触ってみて、「気持ちいい！」と夢中になって遊び始める。そのような中で、お家では経験できない、この時期ならではの土や水、泥の心地よさを味わっているようです。



年中組 遊びや関わりも広がり、虫取りやおうちごっこ、制作など、色々なことを楽しんでいます。その中でも人気なのが、巧技台やバランスストーンなどを使って、テラスをぐるっと回るコース作り。「もっと長く！」「これも使ってみよう！」と、子ども達の発想で作り出すコースは、毎日変わります。作ることをおもしろがっている子、ジャンプや落ちないように渡ることを楽しんでいる子と、様々ですが、遊びを繰り返す中で、それぞれの「やってみたい！」「もっと～したい！」が子ども達の中から生まれています。



年長組 友達と一緒に相談をしながら、みんなが乗れる大きな海賊船やお化け屋敷など、よりダイナミックに遊ぶことを楽しんでいます。木材やポリロールなど素材の特質を生かしながら制作に取り組んだり、捕まえた生き物をじっくり観察しながら調べたりと、目を輝かせてものに向き合い、探究する姿も見られる年長児。これまで遊びの中で培ってきた主体的に人やものに関わる力が、さらに伸び、友達と遊びを進めていくことや好きな遊びに没頭することをワクワクしながら満喫している姿がとてもステキで、頼もしさを感じさせられます。



幼児期に自分がやりたいことに熱中できること。これが生きる力の源泉を育くみます。複雑化する現代社会に船出する前に、たっぷりと心に燃料を蓄えてほしい。このような願いをもって、日々、子どもたちのやりたいことを応援しています。

園長 若本純子

小学校



大福くん

初等教育公開研究会

ともに学び、 学び抜く子供

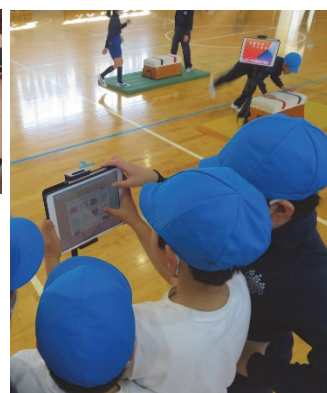
3年次

非認知能力に注目した授業を通して

6月22日（土）に初等教育公開研究会を行いました。県内外さらには海外からも約 600 名の参観者をお迎えすることができました。16 の授業を公開し、その後の分科会においても活発な議論が交わされました。

皆様方からの貴重なご指導・ご助言を今後の研究・実践へと活かしていきたいと思います。





ICT 教育の充実を目指して

一人一台端末が導入されてから、本校においても ICT を活用した授業を積極的に進めてきました。児童も日常的に使用して学習に活かすことができます。その習得の早さには目を見張るものがあります。

初等教育公開研究会は、研究 3 年次の総括の成果発表となりました。これまで校内研究会を繰り返し実施し、一人一人の子どもがどのような学びをしているか見取り、教師の意図や思いを聴きながら協議を重ねました。教師が同僚の仲間と学び合い、専門性を高め合っていく様に感動を覚えました。

当日ご参加の皆様にも好評であり、本校の役割である「研究実証学校」「現職教育学校」に関して、附属小学校の存在意義を実感しております。 校長 神山 久美

ICT 活用実践事例集

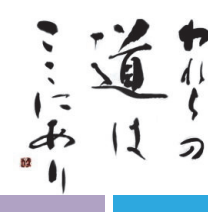
昨年度、附属四校園で、授業や教育活動の中で ICT を活用した実践事例集を作成しました。ぜひご覧ください。



<https://www.yamanashi.info/huzoku>



マナちゃん



中学校

じっくりコトコト古都へ 若桐のつどい（3 学年）

青学年（3 年生）は、「じっくりコトコト古都～一期一会の旅へ～」というスローガンを掲げ、4 月 25 日～27 日の 3 日間、歴史文化あふれる奈良・京都に赴き、五感をフルに使って充実した時間を過ごしました。1 日目は、あをによし奈良。世界最古の木造建築が並ぶ法隆寺や東大寺大仏殿に鎮座する盧舎那仏を見ました。興福寺国宝館では、阿修羅像など、数々の国宝や文化財を間近で見ることができました。2 日目は、タクシーによる京都市内班別自主見学。SELF（総合的な学習の時間）のテーマに基づき、京都市内の寺社仏閣を巡り、それぞれの学びを深めました。夕方には狂言鑑賞会を実施し、能舞台で演じられる本場の狂言を間近で鑑賞し、日本の伝統芸能に触れることができました。3 日目最終日は、クラスごとに体験や見学を通してクラスの仲間との絆や伝統文化への理解を深めることができました。3 日間の生活や貴重な体験を通して、個人としても集団としても成長する大切な機会とすることができました。



緑と富士の頂へ 若桐のつどい（2 学年）

「緑と富士の頂へ」のテーマのもと 1 泊 2 日で若桐のつどいを行いました。SELF で班ごとに簡単には解決できない「大きな問い」を設定し、それについて実際に山梨や静岡の富士山世界遺産センターで職員の方や訪問していた海外の方にも積極的に質問を重ねました。自身の問いに対する学びを深める姿が印象的でした。1 日目の夜に行ったキャンドルサービスでは各クラスが準備してきたスタンプの発表会を行いました。どのクラスも取り組みの成果が発揮され、クラスとしての絆が深まりました。クライマックス、キャンドルに光を灯しながら歌った合唱。富士の裾野に響いた歌声は、緑学年の更なる飛躍の「予感」を感じさせてくれました。



初めての若桐のつどい（1 学年）

「Red start～共につくる若桐のつどい～」のテーマのもと行われた甲府市内を中心に巡る、校外学習。甲府の魅力を見つめ直す旅は、日帰りとはいえども、どのグループも波瀾万丈でした。しかし、2 ヶ月かけて探究してきた学習、3 ヶ月かけて育んできた仲間との絆を発揮し、無事成功を収めることができました。4 月に出会った仲間と共に歩く道のりは、卒業に向けての旅路です。140 人の旅は、まだまだ始まったばかりです。これからの成長と活躍にご期待ください！



本校の総合的な学習の時間“SELF”の前期の学習は、3 学年とも若桐のつどいに向け各自の問いを設定・探究する学びでした。iPad により様々な情報が容易に入手できる今、現地に赴き、実物に触れ、友と協働的に得た感動体験は「本物」から学ぶ尊さを教えてくれたことと思います。

校長 早川 健